

2025 年 6 月 3 日

心からの御礼

公益財団法人 国際通貨研究所
理事長 渡辺 博史

既にご存じの方も多いと思われますが、小職は、この 6 月 30 日で理事長職を辞することとしております。

ということで、このメルマガが理事長としては最後の寄稿となります。2016 年 10 月の着任から数えて 8 年 9 か月ということで、今回も含めて延べ 105 回の連載となりました。新型コロナの期間も含めて（寄稿ですから、人的接触とは縁がなく、大丈夫と言えどももちろん大丈夫なのですが、新型コロナに罹患してホテルに隔離されていた期間中も幸いに寄稿することが出来ました）、一回も休むことなく続けることが出来ました。

執筆の内容については、研究所の主たる業務である通貨問題については、所員各員の優れたレポートに託することとし、どちらかと言うと、それ以外の多岐に渡る事項について書かせて頂きました。毎年一月は過去に遡った歴史事象の列記などでお茶を濁した感もありますし、地球あるいは地図を眺める視点について述べた時期もありますが、経済、政治、環境、食糧、教育、メディア、ガバナンスなどの広汎な分野を、カバーさせて頂きました。場合によっては、その時点での世の中の関心事項についての単なる後追いの補完的論考に終わったものがあることは否めませんが、いくつかの点については、議論が盛んになるかなり前に問題を指摘したものがあるとも思っています。地政学から地経学への展開を、今では多くの方が述べられていますが、これについては相当早い時期から論述させて頂きました。また、長年の公務から離れたこともあって、難しい問題についてやや筆が走ったこともあろうかと思えます。これらを含め、多少なりとも皆様のお役に立てていたとすれば、望外の喜びです。

研究所の業務内容、活動分野は皆様の厚いご支援も得て、かなり拡充、深化できたものと思っています。世界情勢が、誰のせいとも言いませんが、政治、経済、社会の様々な分野で、不確実性を増し、変化の振幅度合いも大きくなっています。また約 80 年に及ぶ現在の基本構図の大変革、あるいはそれを破壊し尽くした上での新しき姿の建設が求められるようになっています。通貨問題自体が、その中心に有るものだとは思いませんが、重要な構成要素ではあることは間違いなく、また論者によってはそこに過度に力点を置き、鋭い、あるいは誤った指摘をされているために、時に焦点が置かれることが有るのが実情です。

そういう中で、短期の変動のみに惑わされることなく、中長期での動きについてのしつかりしたヴィジョンを持って、またドグマを創ることなく実態に即した認識、分析をもとに、対応を考えていくことが必要になってきます。研究所としては、アンテナを高くして、様々な情報を早期に、かつ的確に入手して精度の点検を行うと同時に、その要因、変遷、動向、展開に目を届かせることを念頭に仕事をしていく必要があります。それに加えて、過去の事象の説明には極めて有効であっても、これからの展開を予測するものではない論理、説明に捉われることなく、ある意味で虚心坦懐に事象と直面する姿勢を保持するようにしたいと思います。

小職自体は、ここで一線からは身を引かせて頂きますが、国際通貨研究所が今後とも、皆様に対して、物事を考えるにあたって必要な視座を適切に提供していけることを確信しています。

それを誤ることなく遂行していくためにも、メルマガをご覧頂いている皆様からの当研究所へのご指導ご鞭撻を今後とも変わることなく頂けることが力強い支えとなると思いますので、宜しく願いいたします。

このメルマガの連載においては、誤字脱字のチェック、場合によっては記載事項の確認・訂正、そして読みやすいフォント選定などを行ってサポートしてくれた所員の方々に心から御礼したいと思います。

そして最も御礼を申し上げたいのは、厚いご支援を頂いた読者の皆様です。記載内容についての、温かいコメント、的確かつ厳しいご指摘、議論を深化させる論稿など、様々な声を皆様から頂きましたことが、ここまで書き続けることを可能にしたものと感じています。

皆様のこれからのご健勝とご活躍を祈念し、また、我々の住む世界が安全で健康な姿を維持できることを期待して、結語とさせていただきます。

(IIMA メールマガジンへの寄稿)

メルマガとは直接の関係は有りませんが、この間にテレビ、講演会、授業などで頻繁に使わせて頂いた「干支の絵解き」を、ご参考までに添付しておきます。毎回、前年の10月頃に記したのですが、キチンと実際の事象を読み込めたものになっていたかどうか、ご確認頂ければ幸いです。本来なら、理事長在任期間の9年弱に対応した9本で良いのですが、干支の一巡は12年なので、あえて12本並べさせて頂きましたので、ご笑覧願えれば幸いです。

2014 Year of **Horses** (Wood Horse : 甲午)



H: Hawks Fly When
Tapering Delayed

O: Ocean Leads Continent
Western Pacific Region

R: Rebalancing in and
Recovery of **EURO** Zone

S: Settlement of R-D Duel
US Fiscal Cliff

E: Equality Emphasized
Emerging Economies

S: Sustaining Basic Supply
Water, Food, Gas




➔

➔


Hiroshi Watanabe





Year of Sheep

S : Slower Increase of Wages

H : Harsher Geopolitical Confrontation

E : EURO-Zone Doldrums

E : Exit or *not* of Central Banks' Policy

P : Price-down of Oil and Gas














Year of Monkey

2016





M : Middle-East Settlement & Uncertainty

O : Odds for US Presidential Campaigns *Heirs & Hair*

N : New Paradigm for Monetary Policy

K : Korean Peninsula Fragility *N & S*

E : Exits from and Much Entries to EU Area

Y : Yuan Depreciation *and Yen also?*



















2017 Year of CHICKEN(Rooster)





C China in Big Uncertainty

H Heightening Tension in Middle East

I Inequality

C Continuing **Low** Interest Rate & Inflation

K Koreans in Danger

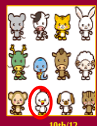
E European Fragmentation

N No Global Political Leadership









1



Year of Dog & Hound

2018
Earth Dog



D : Disgraceful **US** Politics

O : Oscillation in **Europe**

G : Globalization Reversed

H : Hazards for Development

O : Overhaul of Manufacturing

U : Unfair Distribution of Income

N : **North Korea's** Recklessness

D : Dreaming **China**

















2019 Year of Wild Boar

Earth Wild Boar



W : Wrestling Democracy

I : Intensified Centrifugal Force in **EU**

L : Liquid? Semi-liquid? Less-Liquid?

D : Destabilizing of **China**

B : Bogging Down in **Middle-East**

O : Outright Tag-of-War in
Infrastructure Financing

A : **America** MOST to lose?

R : Reckless Roaring **DJT**















Year of *Mouse & Rat*

Metal Mouse





M: Markets without Interest Rates
O: Overdoing AI Innovation
U: Unrest in Chinese Politics
S: Shrinking Trade & Investment
E: European Destabilization
R: Ruinous BREXIT
A: All He needs is the Second Term
T: Turmoil in Middle-East



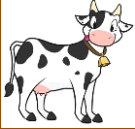






Year of **Cattles**

Metal Cattles

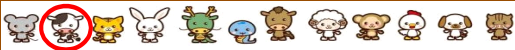




C CHINESE ARROGANCE
O OVERCOMING *CORONAVIRUS*
W WORSENING INEQUALITY

B BUILDING DEBT
U *UNTIED* STATES OF AMERICA
L LIQUIDITY FLOODED
L LABYRINTH OF DX







Year of **Tigers**

Water Tiger





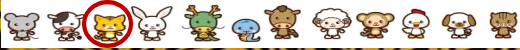
T *Tapering* Slowly Starts
I *Inequality* More Highlighted
G *Gulf*, Middle-East in Jeopardy

E *ESG* Further Accelerating
R Rivalry Heat-up in *US-China*

S Stay Safe with *Coronavirus*















R : Russian Absurd Behavior

A : Aggravation in US-China Relation

B : Balance after COVID-19

B : Ballooning Price of Energy & Food

I : Inflation and Higher Interest Rate

T : Transition in GX




























D : De-risking Accelerated ☆☆☆

R : Restoring Peace

A : AI Symbiosis

G : Gloomy US Election

O : Organizing Food Supply System

N : New Financial Equilibrium

S : Slowing Global Boiling


















S : Shield of Human and Petro

N : No Predictability in US Economy

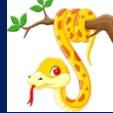
A : AI Casting Shadow

K : Korean Tension Rising

E : Europe Shaken

S : Sluggish China









当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべて御客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2025 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

e-mail: admin@iima.or.jp

URL: <http://www.iima.or.jp>